



社外からも柔軟かつセキュアにアクセスできる Google Apps for Business で業務効率が向上。 社内のコミュニケーション環境もさらに改善。

拡張性が高く、自分たちでシステムの管理をする必要もない。外部からのアクセスが容易になる一方、ローカルにデータを残さずリスクも低減できる。これは非常にいいと感じました。

宮崎祐介氏

株式会社セプテニ・ホールディングス
情報システム部次長



<http://www.septeni-holdings.co.jp>

GOOGLE APPS について

Google Apps for Business は、クラウドの価値を実感できる、画期的なホスティング型オフィス・スイート。1人 25GB の大容量メールボックス、会議への招集も簡単なカレンダー、1つのドキュメントをオンラインで共有しながらのレビュー、誰でも簡単に立ち上げられるサイト、急ぎの用件や確認に便利なチャット、円滑なリモートワークを実現するビデオ通話、動画の投稿や共有、そして強力無比の検索などなど。Google Apps for Business には、社内情報を共有・管理し、最大限に活用するさまざまな機能がセットされています。しかも、費用は1ユーザーあたり年間 6000 円。IT 部門の管理者は、サーバー需要の増加、メンテナンス作業、セキュリティ対策などに悩む必要もありません。

詳細は <http://www.google.co.jp/a> まで

事業概要

株式会社セプテニ・ホールディングスは、インターネット広告事業を手がける株式会社セプテニをはじめ、インターネットを軸に広告やテクノロジー、コンテンツ、ダイレクトマーケティング、コマースといった各分野で事業を行うグループ 15 社を束ねる持ち株会社。各社の事業環境インフラを整備する役割を持つ。従業員数はグループ連結で約 700 人(2011 年 9 月現在)。

製品導入前の状況と課題

以前のメールシステムは、あるホスティング会社が提供するサービスを利用していた。メール使用度の個人差が大きいため、1つのメールボックスを全員でシェアするというタイプのサービスを選択。そのため、メール使用が集中し容量が逼迫する懸念があり、常に監視している手間がかかっていた。その上、少なくとも週に1回はメールの滞留や遅延といった障害が生じるようになった。

「メールシステムにバグがあったようで、バージョンアップすれば一時的に解消するところまで調査できたのですが、トラブルが繰り返されることでそのホスティング会社のサービスレベルに疑問が生じました。それ以上に、スピードが命の当社グループの業務において、メール遅延などは取り引きに即、影響します。そこで、リプレイスを検討することにしました」と情報システム部次長の宮崎祐介氏は言う。

また、営業担当者などが外出時にノート PC を持ち歩き、メールの送受信ができるように EMOBILE を部署ごとに支給していたが、POP のため端末にデータが残り、紛失すると個人情報などが漏出するリスクがあった。

「人的エラーは絶対に起こるという観点で、紛失してもデータが漏出しないためのプロテクトはしていましたが、やはりリスクは残るので持ち出し禁止を検討していました」

クラウドのメリットを享受できる上に、
費用は現行の半分、
オンプレミス型サービスの3分の1以下という
安さも決め手になりました。

Google Apps for Business 導入の経緯

クラウドコンピューティングが注目され始めた 2009 年 8 月の当時、宮崎氏らはクラウド型の唯一の製品であった Google Apps for Business の国内導入事例が増え始めていることに着目。「拡張性が高く、自分たちでシステムの管理をする必要もない。外部からのアクセスも容易で、添付などダウンロードしなければローカルにデータが残らない。これは非常にいいと感じた」と宮崎氏。早速、Lotus Notes や Microsoft Exchange などオンプレミス型のメールシステムおよび現行サービスのバージョンアップとともに比較検討し、Google Apps for Business に決定、300 アカウント導入した(現、約 500 アカウント)。

「クラウドのメリットを享受できる上に、費用は現行の半分程度に削減でき、オンプレミス型サービスより圧倒的に安いことも決め手になりました」

なお、セキュリティ対策としては、POP や IMAP を機械的にプロテクトしてメールは端末に残らないようにし、ダウンロードやネットカフェ端末での利用を禁止している。

Google Apps for Business 導入の効用

導入直後から、携帯電話でも会社の e メールがチェックできるようになり、業務効率が大幅に高まった。スマートフォンの普及で、そのメリットはさらに増している。また、Google ドキュメント をストレージとして、Google サイトを情報共有に、そしてチャットをちょっとしたコミュニケーションに、とアプリケーションの活用も広がっている。

「チャットは相手の着席がわかり、メールのように間をあげず今知りたいことを尋ねるのに便利ですね。当社グループではプロジェクトを組んで進める仕事が多く、こうしたツールは大いに役立っています。今後はビデオチャットもできるようにしたいと考えています」